

教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージ別がん専門リハビリ療法士養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	修士課程大学院生(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)・腫瘍リハビリテーション医学						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がんリハビリテーションに関して、ライフステージごとに異なる知識・スキル、病期（予防・回復・維持・緩和）に応じた実践方法を習得することで、がん患者特有に生じる各種機能障害を予防、治療するためのリハビリを行える専門療法士(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)を養成する。 ・個々の専門職の特性を生かして、がんチーム医療の中でリハビリを実践する臨床能力を身につけ、腫瘍リハビリテーションに関する臨床研究を実践する能力を習得し、国際的に活躍し指導的役割を担うリーダーを育成する。 						
修了要件・履修方法	選択必修科目26単位以上を修得し、修士論文の審査に合格すること。						
履修科目等	<p>選択必修科目26単位以上を修得したうえで、以下の①、②、③を充足すること。修士論文の審査に合格すること。</p> <p><必修科目> <u>医学概論(基礎的概論)</u>(5単位)、<u>医療倫理学</u>(2単位)、<u>医学概論(ヒトの構造・機能・病態概論)</u>、<u>医学方法論</u>(2単位)、<u>研究臨床体験プログラム</u>(1単位)、<u>医科学特別研究</u>(16単位)、<u>ヘルスエコノミクス</u>(4単位)、<u>産業経済分析：ヘルスケア産業</u>(4単位) ①以下の選択科目を履修し、単位を修得する：<u>リハビリテーション医学</u>(2単位)、<u>がんのリハビリテーション学</u>(2単位)；②以下の全ての修士・博士課程併設設置科目を選択科目として履修し、単位を修得する：<u>医学統計学</u>(2単位)、<u>基礎腫瘍学</u>(2単位)、<u>臨床腫瘍学</u>(2単位)、<u>先端ゲノム医学</u>(1単位)；③博士課程「<u>緩和医療学</u>」を聴講する。</p>						
がんに関する専門資格との連携	リハビリテーション科専門医（日本リハビリテーション医学会）の研修施設として認定。「がん患者リハビリテーション料」、「リンパ浮腫複合的治療料」の算定要件を満たす施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>2016年12月に改定されたがん対策基本法に「がん患者の状況に応じた良質なリハビリテーションの提供が確保されるようにすること」が追加され、がんリハビリテーションに関する施策を推進する方針となった。しかしがん専門医療機関においてすら、がんリハビリテーションが十分実施されていない。</p> <p>これまでのがんプロのがんリハビリテーションのコースは本学、京都大学、神戸大学のみであり、引き続き推進すべき分野であり、がんリハビリにフォーカスした修士課程コースは極めてユニークであり、独創性がある。</p> <p>本コースではがんサバイバーシップケアとしてのリハビリテーションの取り組みを含めた体系的な教育プログラム・コースを構築しており、がん患者のライフステージや病期別に、がんサバイバーシップケアとしてのがんリハビリテーションの診療と研究を体系的に学べるという点で新規性がある。</p>						
指導体制	がん医療の質の向上等により、がんサバイバーが増加しつつある中、がんサバイバーに対するケアの推進が喫緊の課題であるが、リハビリテーション診療は、治療と仕事の両立支援、介護予防、終末期の療養生活の維持・向上の観点からも、重要な役割を担う。がんリハビリテーションのエキスパートである指導教授・担当教官がマンツーマンで各地域でリーダーとなるリハビリテーション専門職の養成を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> ・本大学博士課程への進学 ・がん専門医療機関へ就職し、各地域において、がんリハビリテーションを実践する指導者となる。 						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。						